

① 日本国特許庁 (JP) ② 特許出願公開
③ 公開特許公報 (A) 昭59—219384

④ Int. Cl.³ 識別記号 庁内整理番号 ⑤ 公開 昭和59年(1984)12月10日
C 09 K 15/34 7003—4H
// C 07 G 17/00 6956—4H
C 11 B 5/00 6556—4H 発明の数 1
審査請求 未請求

(全 6 頁)

⑥ 天然抗酸化剤の製造方法

⑦ 特 願 昭58—94069
⑧ 出 願 昭58(1983)5月30日
⑨ 発 明 者 原征彦

静岡県駒形通5—11—8
⑩ 出 願 人 三井農林株式会社
東京都中央区日本橋室町二丁目
1 番地
⑪ 代 理 人 弁理士 久保田藤郎

明 細 書

1. 発明の名称

天然抗酸化剤の製造方法

2. 特許請求の範囲

1. 茶葉を熱湯もしくは40～75%メタノール水溶液、40～75%エタノール水溶液および30～80%アセトン水溶液から選ばれた1種の溶剤で抽出し、抽出成分を含む溶液をクロロホルムで洗浄し、次いで該抽出成分を有機溶媒に転溶したのち、該有機溶媒を留去し、しかる後乾燥することを特徴とする天然抗酸化剤の製造方法。

2. 茶葉がインスタント緑茶である特許請求の範囲第1項記載の方法。

3. 有機溶媒が酢酸エチル、n-ブタノール、メチルイソブチルケトンおよびアセトンのいずれかである特許請求の範囲第1項記載の方法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は天然抗酸化剤の製造方法に関し、詳しく

くは茶葉より天然抗酸化剤を収率よく製造する方法に関する。

本発明者は茶の生理活性に関する研究を続けており、その過程で茶抽出液中に強力な抗酸化性成分を確認した。そこで、該成分の分離・採取方法について検討を重ね、この抗酸化性成分を含む天然抗酸化剤を高収率で製造する方法を見出し、本発明に到達したのである。

古来より喫茶の薬効については様々な伝承がなされており、近年に至り茶成分の単離が進むと共にそれら成分と薬効との関係も次第に明らかにされてきた。たとえばカフェインの中樞神経賦活作用、ビタミンCをはじめとする各種ビタミンの薬効、茶タンニンの抗炎症作用、アシドーシスを防ぐカリウムなどの可溶性無機塩類などである。また、茶カテキン類の抗酸化作用に関しても日本食品工業学会誌、第10巻、第9号(1963年9月)、第365～368頁などに言及されている。

しかしながら、茶葉から天然の抗酸化剤を工業的に製造する方法に関しては従来全く報告されて